

2

February

としょかんだより

みなさん、「節分」や「立春」などの言葉の意味を知っていますか。2月4日は二十四節気の立春です。暦のうえでは春ですが、まだまだ厳しい寒さは残るもの日増しに気温が上昇し、春のおとずれを感じさせる季節もあります。今回は、学校図書館にある『総合百科事典ポプラディア第三版』よりそれらの言葉の意味を紹介します。



せつぶん 節分(2月3日)

季節の変わり目。立春、立夏、立秋、立冬の前日をさすが、とくに立春の前日をさすことが多い。立春の前の節分は、現在の暦の2月3日ごろにあたる。旧暦では、立春を1年のはじまりとしたため、その前の節分は、大みそかにあたった。この日には、鬼がやってくるのをふせぐため、ヒイラギの枝にイワシの頭をさしたものを門口において、日暮れに豆をまく習慣があった。現在でも豆まきは、神社や家庭でおこなわれている。



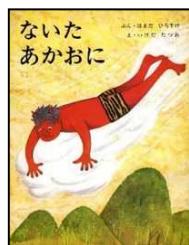
*豆まき

節分の夜に、災いを追いはらい福をよぶために、いり豆(いっただい)をまく行事。豆打ちともいう。豆をまくときに「鬼は外、福は内」ととなることが多い。節分はもともと、悪鬼や流行の病気を追いはらう宮中の年中行事のひとつで、平安時代にはじまった。その後、豆をまいて鬼を追いはらう中国の明の風習がとり入れられ、室町時代のころから民間にも伝わっていった。現代では、各家庭でおこなわれてはほか、神社や寺院などでも、多くの人を集めおこなわれている。

『総合百科事典ポプラディア第三版』より



おにで はなし しょうかい 鬼が出てくるお話を紹介します！



『おにが出了た』
大西廣/文
福音館書店

『ないたあかおに』
はまだひろすけ/文
偕成社

『落語絵本おにのめん』
川端誠/作
クレヨンハウス

『おにぞろぞろ』
舟崎克彦/文
偕成社



『だいくとおにろく』
松居直/再詣
福音館書店



『おにたのぼうし』
あまんきみこ/文
Popura-sha



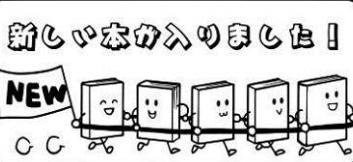
としょかん 図書館からのおしらせ

ねんせいへんきやくさいしゅううび
6年生返却最終日…2月27日(金)

ねんせいかしだしさいしゅううび
1～5年生貸出最終日…2月27日(金)

かしだしさいしゅううび
貸出最終日までは、ひとり5冊借りることができます。

ふだんか ほん
普段借りない本にもチャレンジしよう！



げすいどう
『下水道のサバイバル1』
ポドアルチング
/著
あさひしんぶんしゅっぱん
朝日新聞出版



『パンダのおさじとふりかけパンダ』
しばたけいこ/作
ポプラ社



『おにのパンや』
つかもとやすし/作
ポプラ社



『どっちがどっち？
くらべてみよう に
ている動物』
ニック・クランプトン
/監修
BL出版



『おすしがすき
すぎて』
サトシン/作
Gakken



『ねこホテル』
ふくべあきひろ/作
PHP研究所



『じごく小学校1
～5』
ありたなお/著
有田奈央/作
ポプラ社



『まどのそと』
佐野史郎/作
岩崎書店



『までのいの』
ヨシタケシンスケ
/作
ブロンズ新社



『10歳から使つ
てほしいお金と
サービス大事典』
井出英策/著
せいぶんどうしんこうしゃ
誠文堂新光社



『ぼくのはじまっ
たばかりの人生
のたぶんわすれ
ない日々』
イーサン・ロング
/作
すずき出版



『あやしい
ジュース』
ほりぐちじゅんこ/著
堀口順子/作
岩崎書店



『ぼくの
がっこう』
すずき
鈴木のりたけ/著
PHP研究所



『はまつたら抜け
だせない！？
しおくちゅうしょくぶつ
食虫植物』
たなべなおき/著
田辺直樹/監修
岩崎書店

